

## 松本新市長臥雲氏 3/30 就任初記者会見 生保窓口等設置の防犯カメラ 運用中止、仕組みの廃止を表明



先日3月15日投開票された松本市長選挙で初当選した臥雲義尚氏は、昨日(30日)市役所に初登庁し、記者会見を行いました。その中で、市役所生活保護課の相談窓口など7カ所に設置してある防犯カメラの運用を本日(31日)で中止し、「システム(仕組み)の廃止(「撤去」と同じ作用と説明)」と表明。

今回「運用の中止、仕組みの廃止」を決めた防犯カメラは、生活保護窓口で刃物をちらつかせた男の逮捕事件などを踏まえ、2019年1月から運用が開始されたものでした。

これに対して、私たち松本地区社保協は、防犯カメラの設置方針が明らかになった2018年11月30日「設置の中止」を求める緊急要請(上記写真)を行いました。その後、反貧困ネット・アルプス、松本協立病院など市内外の各民主団体、障がい者団体などの緊急要請行動が行なわれてきました。しかし、松本市は、こうした市民団体等の「設置中止」を求める声を無視し、2019年1月その運用を開始しました。

こうした事態を受け、松本地区社保協は、反貧困ネット・アルプス、松本協立病院などとともに「運用の中止、撤去」を求め、6月と11月の2回にわたり、市民を対象に学習会を開催し、市民世論の喚起を促してきました。

また、本年3月実施の松本市長選挙に際しては、「撤去」を求める好機と捉え、立候補予定者への働きかけを強めてきました。反貧困ネット・アルプスが実施した候補者アンケートには候補者5人とも防犯カメラ設置に反対を表明しました。(右表)のちに立候補を表明した1名も地元新聞社への質問に「反対」を表明し、市長選挙立候補6名全員が「設置反対」を表明する市長選挙になりました。

こうした経過を踏まえた新市長による「運用の中止、実質上の撤去」表明でした。

私たち市民団体の粘り強い運動が、政治を動かしました。今後は、「トラブル」が起きない、相談窓口のあり方などを市役所側にも投げかけ、協議をしていきたいと考えます。

反貧困セーフティネット・アルプスは、昨年来、取り組んできました、生活保護など相談窓口に向いて設置された防犯カメラは人権侵害に当たるため撤去を求めてきました。  
 3月6日告示の松本市長選に当たり立候補を表明された5人の方に公開質問状を送り、生活保護など相談窓口の防犯カメラ設置の賛否について回答をいただきました。

### 5人の予定候補とも防犯カメラ設置に反対の意見を表明！！

立候補予定者名	賛成	反対	理由(記述内容のすべてを記載)
臥雲 義尚		○	社会的弱者と言われる方々の人権に配慮するため
花村 恵子	非表示(ない方がよい)		事件・事故や犯罪の防止、市民・諸金の安全のために必要と判断し設置したと聞いているが、改めて設置した経緯やカメラの一種状況を詳しく調べたい。セキュリティの強化とプライバシーの保護は相反する事柄であり、バランスが大切だと思う。7カ所に防犯カメラが設置されており、圧迫感を感じる市民がいるのは事実なのでなくせるならなくすのが良いとは思っている。
大月よしのり		○	「賛成」「反対」の二者択一なら反対である。できる限り市民が心理的なプレッシャーを受けない方が望ましい。
百瀬 智之		○	相談窓口の防犯カメラの設置は肖像権侵害の疑いが高い
上條 邦樹		○	市民を監視し、弱い立場の市民が市役所の窓口に行くことを少しでも躊躇する可能性がある防犯カメラという名称の事実上の市民監視カメラの設置に断固反対する。 私が市長になったら即時「防犯カメラ」を撤去いたします。 逆に市民が市役所の職員がきちんと仕事をしているか確認できるよう市長室、副市長室、部長室にライブ配信カメラの設置を検討いたします。

※ 質問は2月4日時点の立候補表明をされた5人の方への質問となりました。

